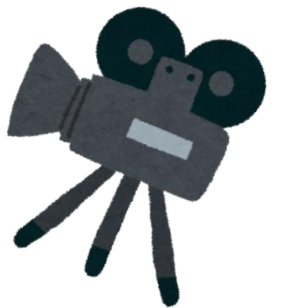


映画の理解と分析のポイント

図書館 4F 学習相談デスク LC 佐久間 翔

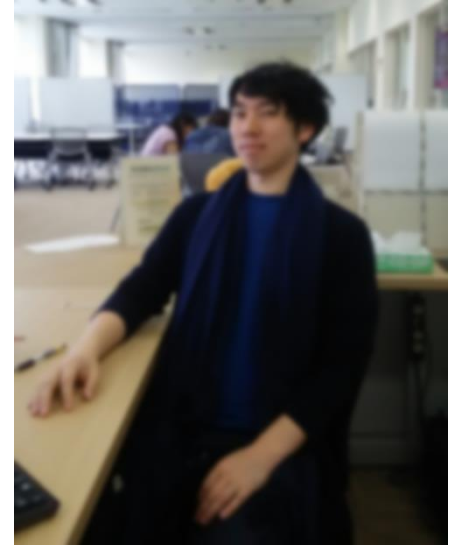


●佐久間 翔

●大学院 博士後期 国際社会

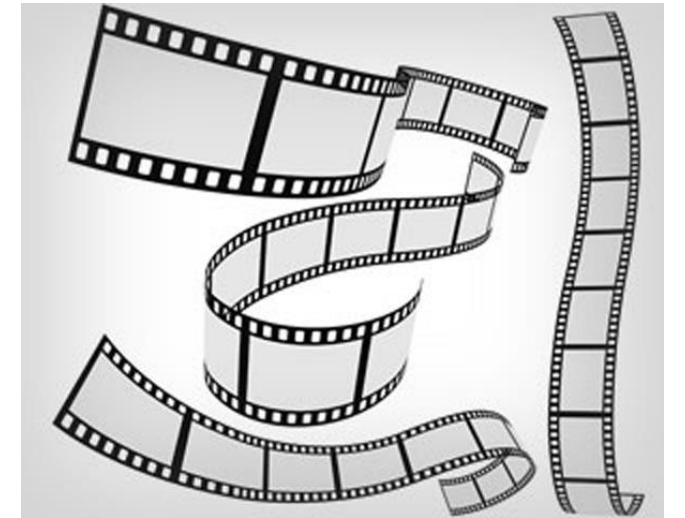
●専門：計量経済学・開発経済学・貿易投資論

●職歴：日系金融機関など



こんなこと、ありませんか

- 授業やレポートで映画を扱う…
- 映画の分析って？
- テーマ??
- 実はストーリーすら…



映画を **“学問の材料のひとつ”** として扱うきっかけをつくる

(前提)



映画の理解に正解はあるの



**ない。映画から抽出できる意味には多重性。
芸術はコミュニケーション。**

映画からくみ取る“意味”って？

	作り手側が 意図している意味	作り手側が 意図したわけではないが 抽出可能な意味
主な分析の方法	<u>ミクロ分析</u> <u>マクロ分析</u>	<u>メタ分析</u>



レポートでは、このどちらも扱うことができる

まずは基本の メタ分析

- 作品の生まれたバックグラウンドを調べる
 - 作品世界となっている国、時代
 - 映画の制作年、制作国、原題など



それぞれの社会環境に**特有の事象**を
考慮し、その影響を探る

メタ分析の切り口

- 現実世界と作品世界を、**歴史的・政治的・文化的・心理的・社会的・経済的**な面から比較してみる

→違和感のあるところが論点を設定しやすい
→その**原因**が何に由来するか考察してみる

作品の意図をくみ取る



《理解を述べた例》

船が出航 → 船内で男女が出会う

→ 二人が恋に落ちる → 氷山にぶつかる → 沈没

→ 男は死に、女だけ生き残る



- 視覚的事実 = 出来事のみ追っている
- 受動的な理解をしている

問題点

作品中の出来事を順に追うだけでは
シーンのつながりが分からなくなり**つまづきやすい**



連続する出来事の背景にある
物語の論理を把握することが**重要**

ここに注目

では、出来事と出来事は、どのように結びついて
いるのか??



登場人物の行動の因果関係を意識すると
シーンの関連性が頭に入る
→ちょっと主体的に考える必要

映画を動かす “エネルギー源”

- 物語が展開していくには、必ず**登場人物の欲求や願望**が根本にある
- 登場人物は、それぞれの**欲求や願望に従って行動**する
- シーンとシーンの間には、**行動の「原因」と「結果」という因果関係の論理**がある



行動の因果関係の応用① マイクロ分析

シーンが進んだら前とのつながりがわからなくなった～



前後の場面で「事態」「心理」「行動」の
3つのポイントを考えてみる

行動の因果関係の応用① マイクロ分析



事態



心理



行動

- その人にとって
どのようなことが
起こったのか？

= 原因

- 事態をうけて
その人は何を感じ
考えたのか？

- 心理に基づいて
その人は
どのような行動を
とったか？

= 結果

行動の因果関係の応用② マクロ分析

結局この作品って何が言いたかったの？
テーマがわからない～



- 主人公にとって最大の「壁」を見つける
- 壁に向き合う前と後の違いを考える

行動の因果関係の応用② マクロ分析

均衡状態



均衡状態



- 均衡が崩れる
きっかけは？

「壁」に向き合う

- 壁は何か？
- どのように対処
しているか？
- 対処は成功しているか？

- 以前と比べ
何が変容したか？

行動の因果関係の応用② マクロ分析



- 壁として登場しやすいもの

家族、愛、金銭、仕事、名声、アイデンティティ、
ジェンダー、安全（肉体的・精神的）、
自分の過去・現在・未来

まとめ：因果関係の考察表

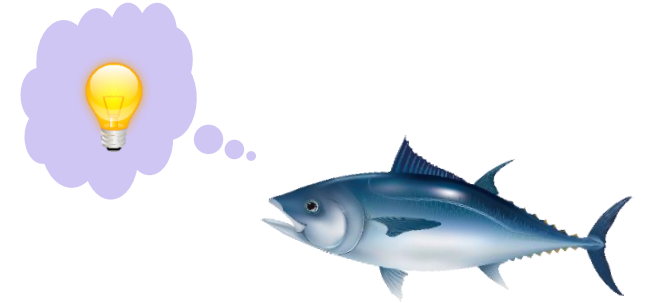
- ミクロ分析表

事態	心理	行動
何がおこったか	何を感じ考えたか	どのような行動に出たか

- マクロ分析表

均衡状態	壁	均衡状態
均衡が崩れる きっかけは何か	壁は何か 壁への対処	壁に向き合う前と変わったことは何か
	対処はうまくいっているか	

最後に



- 具体的に課題が出ていれば個別相談もできます

- 火曜（15：00～19：00）
- 木曜（15：00～19：00）

- 参考文献

ウォーレン・バックランド(2007)『フィルムスタディーズ入門』
マイケル・ライアン(2014)『Film Analysis 映画分析入門』